DIALOG(R) File 351: Derwent WPI (c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

012857478 **Image available**
WPI Acc No: 2000-029311/ 200003

XRPX Acc No: N00-022335

Regeneration procedure of a mini disc player - involves reading and reproducing music data from DRAM in order after writing slight time part music data shorter than time, t, in shockproof memory area of DRAM based on investigated recording length

Patent Assignee: ALPINE KK (ALPN)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Week
JP 11296862 A 19991029 JP 98104395 A 19980415 200003 B

Priority Applications (No Type Date): JP 98104395 A 19980415 Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes JP 11296862 A 7 G11B-007/00

Abstract (Basic): JP 11296862 A

NOVELTY - After writing the slight time part music data shorter than the time, t, in a shockproof memory area (21b) of a dynamic random access memory (DRAM) (20), the music data are read from the DRAM and reproduced in order based on the investigated length by which the music data are recorded. DETAILED DESCRIPTION - The length, by which music data are physically and continuously recorded from the regeneration start position, is investigated with reference to the UTOC data. After writing the time portion, t, of the music data in the degree in which sound breakage is not caused in the shockproof memory area, the music data are read and reproduced based on the investigated length.

USE - For MD player.

ADVANTAGE - Prevents sound breakage in divided portions of music. DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the block diagram of the MD player. (20) DRAM; (21b) Shockproof memory area.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-296862

(43)公開日 平成11年(1999)10月29日

	FΙ	識別記号		(51) Int.Cl. ⁶
R	G11B 7/00		7/00	G11B
3217	20/10	3 2 1	20/10	

密査論求 未請求 請求項の数1 〇1、(全 7 頁)

	世 旦明八	不明不 明不列心致 I OL (主 I 頁)				
特顧平10-104395	(71)出題人	000101732 アルバイン株式会社				
平成10年(1998) 4月15日		東京都品川区西五反田1丁目1番8号				
	(72)発明者 植木 伸秀 東京都品川区西五反田1丁目1番8号 ルパイン株式会社内					
	(74)代理人	弁理士 斉藤 千幹				
		•				
	特願平10-104395 平成10年(1998) 4月15日	特願平10-104395 (71)出題人 平成10年(1998) 4月15日 (72)発明者				

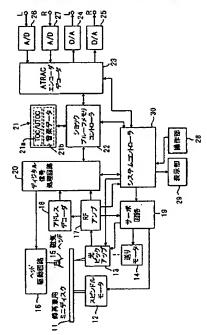
(54) 【発明の名称】 ディスク媒体の再生方法

(57)【要約】

【課題】 曲の先頭で音切れが生じることがなく、しか も、再生開始時における音出しを早くする。

【解決手段】 再生開始位置から音楽データが物理的に連続して記録されている長さが設定長以上か否かをUTOC情報を参照して調べ、設定長以下の場合には音切れが生じない程度の時間分(t)音楽データをショックプルーフメモリ21bに書き込んでからショックプルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生し、設定長以上の場合には、時間tより短いわずかな時間分音楽データをショックプルーフメモリ21bに書き込んでからショックプルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生する

本発明の一実施例にかかわるミニディスクプレーヤの構成



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 曲の記録位置を示すスタートアドレス及 びエンドアドレスが記録されるUTOCエリアと曲の音 楽データが記録されるプログラムエリアとを備えたディ スクから音楽データを間欠的に高速で読み取ってショッ クプルーフメモリに書き込み、該ショックプルーフメモ リから音楽データを連続的に低速で読み取って再生する ディスク媒体の再生方法において、

再生開始位置から音楽データが物理的に連続して記録さ れている長さが設定長以上か否かを前記UTOC情報を 参照して調べ、

設定長以下の場合には音切れが生じない程度の時間分音 楽データをショックプルーフメモリに書き込んでから該 ショックプルーフメモリより再生順に音楽データを読み 出して再生し、設定長以上の場合には、前記時間より短 い時間分音楽データをショックプルーフメモリに書き込 んでから該ショックプルーフメモリより再生順に音楽デ ータを読み出して再生することを特徴とする再生方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明はディスク媒体の再生 方法に係わり、特に、所定長以上の音楽データが物理的 に連続して記録されていない場合であっても不連続部分 で音切れが生じることがなく、しかも、所定長以上の音 楽データが連続して記録されている場合には再生操作後 に短時間ですばやく音を出力できるディスク媒体の再生 方法に関する。

[0002]

【従来の技術】ミニディスクプレーヤにおける記録再生 媒体としてのミニディスク(MD)は、図5に示す構造 を有している。ディスク中心から半径14.5㎜~16㎜の範 囲はピット領域(TOCエリア)PTA、ディスク中心か ら半径16㎜~61㎜の範囲はグルーブ領域(レコーダブル エリア) GRAである。 グルーブ領域(レコーダブルエリ ア)GRAは、内周側のUTOCエリアと音楽データ等 を記録するプログラムエリアとで構成されている。又、 記録再生用ミニディスクの全周には所定時間毎のアドレ ス情報が記録されている、

【0003】TOCエリアPTAには、ディスクタイプ (再生専用/記録再生兼用の別)、記録パワー、UTO Cスタートアドレス、プログラムエリアの先頭アドレス 等の各種データがピット列で予め記録されている。レコ ーダブルエリアGRAのプログラムエリアには、ユーザ が任意の音楽データ等を、最大で255 曲分記録できるよ うになっており、曲番、曲のスタートアドレス/エンド アドレス、トラックモード (コピー保護の有無、ステレ オ/モノ、エンファシスオン/オフ等)は図6に示すよう にUTOCエリアで一括管理されるようになっている。 このため、UTOC情報を参照することにより所望曲を 高速かつ容易に選曲して演奏でき、しかも、UTOCエ

リアの記録内容のみを操作することにより、不要曲を消 去(ERASE)あるいは全曲消去(ALL ERASE)、曲の分割(DIV IDE)、複数の曲を1つの曲に結合(COMBINE)、曲の移動 (曲番変更) (MOVE) などの様々な編集を簡単に行うことが できる。

【0004】ミニディスクプレーヤは、図7に示すよう に、ADコンバータ1から入力するディジタルの音楽デ ータをATRAC (Adaptive Transform Acourstic Coding) エンコーダ/デコーダ2で圧縮してミニディスク3に記 録し、逆にミニディスク3から読み取った圧縮音楽デー タをATRACエンコーダ/デコーダ2で復調してDAコン バータ4に出力する。再生時、光ピックアップ5はミニ ディスク3上のディジタル信号(圧縮音楽データ)を1.4M bpsで読み取る。一方、ATRACエンコーダ/デコーダ2は 300Kbpsで圧縮音楽データを入力されればATRACの圧縮を 解き、1.4Mbpsで音楽データをDAコンバータ4に入力 し、該DAコンバータより音楽信号を途切れることなく 出力することができる。かかる1.4Mbpsと300Kbpsとの速 度差を吸収するために、光ピックアップ5とAMTRCエン コーダ/デコーダ2の間にショックプルーフメモリ6が データバッファとして設けられる。

【0005】ミニディスク3から1.4Mbpsで読み取った 圧縮音楽データを上限値FULLまで記憶すると、データフ ル信号が発生する。このデータフル信号が発生すると、 ミニディスク3からの読出を停止し、以後、300Kbpsで ショックプルーフメモリ6から圧縮音楽データを読み出 してATRACエンコーダ/デコーダ2に入力する。これに より、ショックプルーフメモリ6に記憶される圧縮音楽 データ量が少なくなり下限値EMPTYに等しくなると、デ ータエンプティ信号が発生する。データエンプティ信号 が発生すると、ミニディスク3からの圧縮音楽データの 読出を再開し、読み取った圧縮音楽データを上限値FULL まで記憶し、以後、上記制御を繰り返す。以上と並行し てショックプルーフメモリ6から常時300Kbpsで読み出 された圧縮音楽データはATRACエンコーダ/デコーダ2 で復調され、1.4Mbpsの音楽データとなってDAコンバ ータ4に入力し、DAコンバータは音楽信号を途切れる ことなく出力する。

【0006】ミニディスク3への音楽データ録音時に は、ATRACエンコーダ/デコーダ2は1.4MbpsでADコン バータ1から入力した音楽データをATRAC方式で圧縮 し、圧縮した音楽データを300Kbpsで途切れることなく ショックプルーフメモリ6に書き込む。又、ショックプ ルーフメモリ6より1.4Mbpsで圧縮音楽データを読み出 し、光ピックアップ5により1.4Mbpsでミニディスク3 上に書き込む。かかる速度差を吸収するため、ショック プルーフメモリ6から1.4Mbpsで圧縮音楽データを読み 出してディスクへ書き込む動作は間欠的に行われる。 【0007】ショックプルーフメモリ6から1.4Mbpsで

圧縮音楽データを読み取ってミニディスク3へ書き込む

と、該ショックプルーフメモリ6の圧縮音楽データが減小する。そして、圧縮音楽データが下限値EMPTYまで減小するとデータエンプティ信号が発生する。このデータエンプティ信号が発生すると、ショックプルーフメモリ6からの読み出し及びミニディスクへの書き込みを停止する。以後、ATRACエンコーダ/デコーダ2から300Kbpsで圧縮音楽データが出力され、ショックプルーフメモリ6に船枘される。これにより、ショックプルーフメモリ6に記憶される圧縮音楽データ量が増大し、上限値FULLに等しくなると、データフル信号が発生する。データフル信号が発生すると、ショックプルーフメモリ6からの圧縮音楽データの読出を再開し、読み取った圧縮音楽データをミニディスク3に書き込み、以後、上記制御を繰り返す。

[0008]

【発明が解決しようとする課題】ミニディスクでは、消去(ERASE)、分割(DIVIDE)、結合(COMBINE)、移動(MOVE)などの様々な編集ができるため、記録されている音楽データが必ずしもシーケンシャルでなく、飛び飛びで記録される場合が多い。かかるミニディスクを再生する場合、再生開始時にミニディスクから音楽データを一旦ショックプルーフメモリにフルに取込んでしまえば、その後は音飛びが発生せず特に支障はない。しかし、音出しを早くするためにショックプルーフメモリにほとんどたまっていない時点で音出しを開始する様なプレーヤーでかかるミニディスクを再生すると、再生開始時に曲の不連続部分で音が途切れてしまう現象が発生する。

【0009】例えば、図8(a)に示すように1曲目の音楽データが2つに分割され、最初の曲部分の長さが1 秒程度で、続きの曲部分が離れた場所(4曲目以降)にあるミニディスクを再生する場合を考察する。まず、1 曲目の最初の曲部分 M_{11} を1秒分読んでショックプルーフメモリに入れる。この時、すぐに音を出しはじめたとする。1秒分のデータを読み込むのに約0.2秒かかる。次に音を出しながら、ピークアップを1曲目の続き部分 M_{12} 方向に送ってその先頭部分をサーチする。このサーチが0.8秒(=1.0-0.2)秒以内で終了すれば音は途切れない。しかし、例えば1.2秒かかってしまったとすると、(1.2+0.2)-1.0=0.4 秒の音切れが発生してしまう。

【0010】かかる音切れを回避するためには、たとえば再生時間にして10秒分ショックプルーフメモリにためてから音出しを開始する様にすれば良い。しかし、10秒分をショックプルーフメモリにためるには約2秒かかり、音出しが遅くなる問題が生じる。録音再生用ミニディスクは、TOC、UTOC情報を2重に読まなければならず、もともとCDよりも音出しがかなり遅いという問題があり、上記遅延が加わるとますます音出しの遅れが大きくなる問題が生じる。以上では、ミニディスクの最初の曲部分が短い場合で説明したが、図8(b)に示すように4曲目の終わり近くから最後の1秒程度の再生

を開始し、次の5曲目が離れた場所にあるような場合にも、図8(a)で説明した場合と同様な問題が生じる。以上から本発明の目的は、図8(a)に示すように曲が分割されて先頭曲部分が短い場合や図8(b)に示すように曲の終わり近くから再生を開始し、次の曲が離れた場所にあるような場合であっても、曲の先頭で音切れが生じることがなく、しかも、上記以外の場合には再生開始時における音出しを早くできるディスク媒体の再生方法を提供することである。

[0011]

【課題を解決するための手段】上記課題は本発明によれば、再生開始位置から音楽データが物理的に連続して記録されている長さが設定長以上かどうかをUTOC情報を参照して調べ、設定長以下の場合には音切れが生じない程度の時間分音楽データをショックプルーフメモリに書き込んでから該ショックプルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生し、設定長以上の場合には、前記時間より短い時間分音楽データをショックプルーフメモリに書き込んでからショックプルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生することにより達成される。

[0012]

【発明の実施の形態】(A)ミニディスクプレーヤの構成

図1は本発明の一実施例に係るミニディスクプレーヤの全体構成図である。11は記録再生用ミニディスクであり、グルーブ領域にUTOC情報と圧縮音楽データ、最内周のピット領域にTOC情報が記録されている。12はスピンドルモータであり、スピンドルサーボ系の制御を受けて記録再生用ミニディスク11を所定の一定線速度で回転する。13は記録再生用ミニディスク11に対し、反射ビームより記録再生用ミニディスク11に記録された信号を検出すると共に、レーザビームの照射でキュリー温度以上に昇温させ、後述する記録へッドによる光磁気記録を可能とする光ピックアップ、14は光ピックアップ13を記録再生用ミニディスク11の半径方向に送る送りモータ、15は記録時に新たなデータの光磁気記録を行う記録へッド、16は記録へッドを駆動するへッド駆動回路である。

【0013】17は光ピックアップ13の検出信号から RF信号及びEFM信号、各種エラー信号(フォーカス エラー信号、トラッキングエラー信号)、アドレス変調 信号、CLV制御信号等を作成するRFアンプ、18は RFアンプから出力されるアドレス変調信号よりアドレ スデータを復調するアドレスデコーダ、19はサーボ回 路であり、RFアンプから出力されるフォーカスエラー 信号、トラッキングエラー信号、CLV制御信号に基づ きそれぞれフォーカスサーボ制御、トラッキングサーボ 制御、スピンドルドルサーボ制御を行うと共に、送りモータ14に対するスレッドサーボ制御を行うものであ る。20はディジタル信号処理回路である。ディジタル信号処理回路20は、①記録時、後述するショックプルーフメモリコントローラから入力した圧縮音楽データをEFM信号に変換し、光ピックアップ13及び記録へッド15をして記録再生用ミニディスク11に光磁気記録させ、②再生時、RFアンプから入力したEFM信号からUTOC情報や圧縮音楽データを復調してシステムコントローラやショックプルーフメモリコントローラに出力する。

【0014】21は圧縮音楽データを所定時間分記憶す ると共に、TOC/UTOC情報を記憶するDRAMで あり、図2に示すようにTOC/UTOC記憶エリア2 1aと音楽データ記憶エリア(ショックプルーフメモ リ)21bを備えている。TOC/UTOC記憶エリア 21aには、記録再生用ミニディスク11をディスクプ レーヤに装着した時、該ディスクのTOC/UTOCエ リアより読み取ったTOC/UTOC情報が書き込まれ る。22はショックプルーフメモリコントローラであ り、システムコントローラとの間で所定の通信を行いな がら、記録時は後述するATRACエンコーダ/デコーダか ら入力した圧縮音楽データをDRAM21の音楽データ 記憶エリア(ショックプルーフメモリ)21bに連続的 にノーマル速度で書き込み、該書き込みと並行して間歇 的かつ高速に圧縮音楽データをディジタル信号処理回路 20へ出力する。また、ショックプルーフメモリコント ローラ22は、再生時、ディジタル信号処理回路20か ら間歇的かつ高速に入力する圧縮音楽データを音楽デー **夕記憶エリア(ショックプルーフメモリ)21bに間歇** 的かつ高速に書き込み、該書き込みと並行して連続的に ノーマル速度で圧縮音楽データをATRACエンコーダ/デ コーダに出力する。

【0015】23はATRACエンコーダ/デコーダであり、再生時、ショックプルーフメモリコントローラ22から連続的に入力する圧縮音楽データから2ch分のオーディオサンプルデータを復調し、録音時、ADコンバータから入力する2ch分のオーディオサンプルデータをATRAC方式により圧縮音楽データに変換してショックプルーフメモリコントローラ22へ出力する。24,25は再生時にATRACエンコーダ/デコーダ23から出力された2ch分のオーディオサンプルデータをDA変換するDAコンバータ、26,27は録音時に外部から入力した2ch分のアナログオーディオ信号をA/D変換してATRACエンコーダ/デコーダ23へ出力するADコンバータである。

【0016】28は操作部であり、電源オンキー、PLAYキー、STOPキー、RECキー等通常の録音/再生動作を行うための各種操作キーや記録再生用ミニディスク11のUTOC情報を操作して編集を行うための操作キーを有している。編集としては、曲の削除(ERASE)、全曲削除(ALL ERASE)、結合(COMBINE)、分割(DIVID

E)、曲番変更(MOVE)等がある。29はUTOC情報やシステムの現在の動作状態等を表示する表示部、30はシステムの全体的な制御を司るシステムコントローラである。

【0017】システムコントローラ30は、②各種操作キーの操作に従ってシステム全体を制御してユーザ所望の録音/演奏/編集/表示制御を行うと共に、②再生時、ショックプルーフメモリコントローラ22からデータフル通知を受けたときにポーズ制御を行い、その後、空き発生通知を受けたときにポーズ解除制御を行ったり、③トラックジャンプ発生時、ショックプルーフメモリコントローラ22にトラックジャンプ発生通知を行うとともに、光ピックアップ13をジャンプ前に戻す復帰制御を行い、復帰完了後、復帰通知をショックプルーフメモリコントローラ22に通知する。④又、システムコントローラ30は、音楽データが再生開始位置から物理的に連続して記録されている長さが設定長以上か否かに応じて音出し開始時間を制御する。

【0018】(B)UTOC情報

図3はUTOC情報の説明図であり、DISC IDはディスク識別番号、P-DFAは欠陥領域開始アドレス、・・・、P-TN On (n=1~255)はn曲目のstrat address格納位置を示すポインタ、Track mode はコピー保護の有無、ステレオ/モノ、エンファシスオン/オフ等を示すもの、Link-Pは曲が分割されている場合における次の曲部分先頭位置を示すポインタで、Link-Pが00hであれば曲の終わりを意味する。従って、UTOC情報を参照することにより、再生開始位置から物理的に連続する音楽データの長さを識別することができる。

【0019】(C)再生制御

図4は音楽データが再生開始位置から物理的に連続して記録されている長さが設定長以上か否かに応じて音出し開始時間を制御するシステムコントローラ30の再生処理フローである。ミニディスク11をプレーヤに装着後、操作部28のPLAYキーを操作すると(ステップ101)、システムコントローラ30は、DRAM21のTOC/UTOC記憶エリア21aに記憶されているUTOC情報を検査し、再生開始位置から音楽データが物理的に連続して記録されている長さを求める(ステップ102)。尚、曲番を指定してPLAYキーを操作した時には該曲番の先頭位置(アドレス)が再生開始位置になり、又、曲番を指定せず単にPLAYキーを操作した場合にはPLAYキー操作時におけるピックアップ位置(アドレス)が再生開始位置となる。

【0020】ついで、求めた長さが設定長(例えば、再生時間10秒に相当する長さ)以上であるかチェックする (ステップ103)。設定時間長より長ければ、たとえ 曲が分割されていても不連続部分での再生時に既にショックプルーフメモリ21bに十分の長さの音楽データが 格納されるため、該不連続部分で音飛びが生じることは ない。従って、ショックプルーフメモリ21bに音楽データが少しでもたまったら該メモリより再生順に音楽データを連続的に読み出してATRACエンコーダ/デコーダ23に入力し、復調、DA変換して音出しを開始する(ステップ104)。以後、通常のプレイ制御を行う(ステップ105)。

【0021】一方、ステップ103において、再生開始 位置から音楽データが物理的に連続して記録されている 長さが設定長以下の場合、不連続部分の再生時までにショックプルーフメモリ21bに記憶される音楽データ量 は少なく不十分であり、該不連続部分の再生時に音飛びが生じる。そこで、かかる場合には、直ちに音出しを行わず、所定時間分、たとえば、再生時間10秒に相当する 長さの音楽データがショックプルーフメモリ21bに格納されるまで音出しを待つ(ステップ106、10

7)。そして、10秒に相当する長さの音楽データがショックプルーフメモリ21bに格納されれば、ショックプルーフメモリ21bより再生順に音楽データを連続的に読み出してATRACエンコーダ/デコーダ23に入力し、復調、DA変換して音出しを開始し(ステップ104)、以後、通常のプレイ制御を行う(ステップ105)。

【0022】以上のように、再生開始する前に曲の連続性のチェックを行い、10秒以上連続していればメモリにデータが少しでもたまったら音出しを開始する。もし、連続しておらず、曲が分かれており、10秒以上連続していなければ、ショックプルーフメモリに10秒分たまるまで待って、それから音を出しはじめる。このようにすれば、ほとんどの場合、PLAYキー操作後短時間ですばやく音が出せ、かつ、レアケース(図8(a),(b)の場合)での音切れも防止できる。以上、本発明を実施例により説明したが、本発明は請求の範囲に記載した本発明の主旨に従い種々の変形が可能であり、本発明はこれらを排除するものではない。

[0023]

【発明の効果】以上本発明によれば、再生開始位置から

音楽データが物理的に連続して記録されている長さが設定長以上か否かをUTOC情報を参照して調べ、設定長以下の場合には音切れが生じない程度の時間分音楽データをショックブルーフメモリに書き込んでから該ショックブルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生し、設定長以上の場合には、前記時間より短い時間分音楽データをショックブルーフメモリに書き込んでから該ショックブルーフメモリより再生順に音楽データを読み出して再生するようにしたから、PLAYキー操作後短時間ですばやく音を出すことができ、しかも、曲の分割部分での音切れを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例にかかわるミニディスクプレーヤの構成図である。

【図2】DRAM構成図である。

【図3】UTOC情報説明図である。

【図4】本発明のプレイ制御処理フローである。

【図5】記録・再生用ミニディスクの構成図である。

【図6】UTOC情報の概略説明図である。

【図7】ショックプルーフメモリへの間欠書き込み/間欠読出制御の説明図である。

【図8】従来の問題点説明図である。

【符号の説明】

11・・記録再生用ミニディスク

13・・光ピックアップ

20 · · ディジタル信号処理回路

 $21 \cdot \cdot DRAM$

21a··TOC/UTOC記憶エリア

21b·・音楽データ記憶エリア (ショックプルーフメ モリ)

22・・ショックプルーフメモリコントローラ

23 · · ATRACエンコーダ/デコーダ

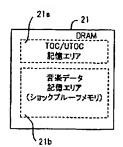
24, 25 · · DAコンバータ

26, 27 · · ADコンバータ

30・・システムコントローラ

【図6】

UTOC情報の概略説明図



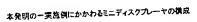
【図2】

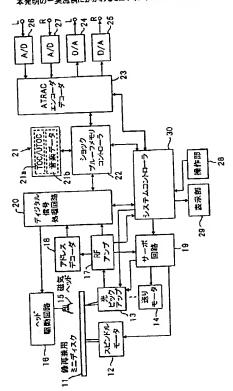
DRAM構成説明図

アドレス		A B	ic i	DE F	<u>a</u>	H	J		Z		
	итос	曲番1	2	3	4		5	UR	リード アウト		
	未録音部分										
	曲母	母スタートアドレス		エンナブド	レス	トラッ	クモ	-×			
	1	P	1	В							
	2	С		D							
	3		:	۶							
	4		3	Н							
i	5			i J_							
						П					
1		<u> </u>				L-					

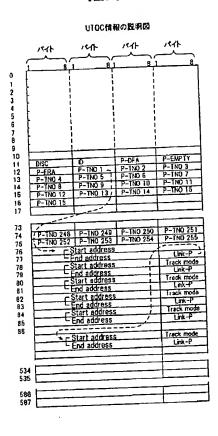
1

【図1】



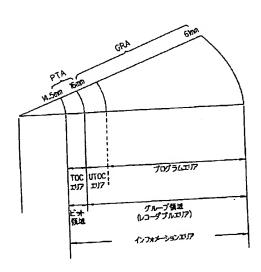


【図3】



【図5】

記録・再生用ミニディスクの構成図



【図7】

ショッケブルーフメモリへの間欠害さ込み/間欠続出制御の説明図

